

令和4(2022)年度 中堅教諭等資質向上研修(地区別研修:道徳教育)を開催しました

令和4(2022)年8月18日(木) 実施

下都賀教育事務所 学校支援課

1 研修の目的・内容

(1) 目的

- 「心の教育」の推進における道徳教育の重要性を認識し、道徳科の指導案の作成を通して、道徳科の特質を理解するとともに、ねらいに迫る授業づくりに資する。

(2) 会場

- 下都賀庁舎

(3) 内容

- 趣旨説明及び事務連絡 下都賀教育事務所 学校支援課 担当
- 班別研修 指導案作成
 - ・ねらいとする道徳的価値の確認
 - ・ねらいの設定
 - ・中心発問及びその前後の発問の設定

2 本研修で確認したこと

【本研修の趣旨等について】

- 道徳教育は、日常的な生活場面を含むあらゆる教育活動の中で、道徳的行為が身に付くように道徳的価値を意識させながら繰り返し指導することが大切である。

- 道徳科の目標には、道徳性を養うために必要な学習の過程が明示されている。

道徳的諸価値についての理解を基に

「自己を見つめ」
「物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え」
「自己(人間として)の生き方についての考えを深める」

道徳的判断力、心情、実践意欲、態度という四つの内面的資質を育てる。

- 道徳科の授業をより充実させるには、「ねらいに迫る」ことが重要である。

→「児童生徒にどのような心を育てるのか」を明確にして授業を展開する。

【※参考】 「栃木県教育振興基本計画 2025」 P.19
「令和4(2022)年度版下都賀地区学校教育の重点」 P.7
「栃木県道徳教育ハンドブック」 P.20



3 本研修で学んだこと（参加者が記入した「研修の振り返り」より）

【授業づくり】

- ・ 大切なのは、実際の子どもの姿であり、子どもの実態に合わせてねらいを変えたり、発問を変えたりしていくことが改めて大切だと思いました。
- ・ 育てたい心情や態度が身につくように、また、道徳的諸価値の理解だけでなく、自分事として考えられるように、毎日の授業を充実させたいと思いました。
- ・ どのようにねらいを設定するかによって、中心発問が変わり、同じ教材でも授業の流れが変わることが分かりました。
- ・ 一時間の道徳の授業の中で、児童に何を考えさせたいのか、どんな力を身につけさせたいのかを明確にして、授業を行っていきたいです。
- ・ 内容項目分析表を参考にし、ねらいを定め、中心発問を考えていくという手順を学びました。どのような子どもたちの姿をゴールとして考えるか、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度のどの部分に重点をおくかを考えることが大切なのだと学びました。
- ・ 一度ねらいが決まっても、中心発問や児童の実態を考えるうちにねらいの見直しが必要になるなど、深く考えれば考えるほど、道徳科の面白さを感じることができました。指導案を作るに当たり、子どもにとって今一番必要な指導となるように考えていきたいと思います。
- ・ ねらいや教材、子どもの実態によって、何通りも展開が考えられることが今回の協議を通してよく分かりました。同じねらいでも、着目する登場人物によって、中心発問も展開も異なり、担当している子どもたちには、何を考えさせるべきなのかを意識して、授業づくりを行っていきたいです。
- ・ 今回の研修を通して、道徳への苦手意識がうすれ、他の内容の授業を考えると、今日のような方法でじっくり考えていきたいと思います。
- ・ 子どもたちに指導する上で、「多面的・多角的に」といいますが、それは私たち教師も同じことなのだと痛感しました。

【班別研修】

- ・ 他の先生方の発問の仕方、言葉の投げかけ方、資料提示の方法など、大変勉強になりました。
- ・ 発問に対する予想される子どもの様子、反応を想像しながら考えを何度もすり合わせていきました。学校によって子どもの実態に違いがあり、とても参考になりました。
- ・ 中心発問を他の先生方と話し合う中で、自分とは違う視点の発問があり、どれがねらいに迫る発問なのかじっくりと考えることができました。学校に戻ったら、もう一度子どもたちの実態を考えながら、指導案を作っていきたいです。

【ミドルリーダーとしての役割】

- ・ ミドルリーダーとして、若手の先生方の授業づくりにアドバイスをしていきたいと思いました。
- ・ 学校の教育活動全体をとおして行う道徳教育の要としての道徳科、という考え方をよく理解していなかったのが、改めて意識して道徳の授業を行いたいと思いました。
- ・ 後輩と授業力を高めたり、先輩方からアドバイスをいただいたりしながら、今後の研修にも励みたいです。

